【　音楽科　】

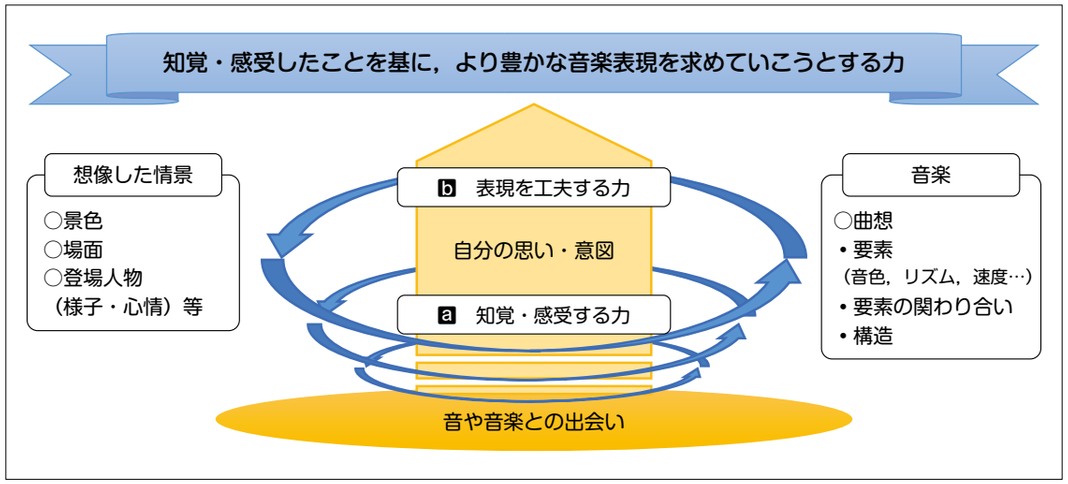
育成したい「思考力」

a　知覚・感受する力：音楽を形づくっている要素や，その関わり合いから生まれる曲想を基に，音楽の表す情景を想像する力

b　表現を工夫する力：音楽から想像した情景と結び付けながら，音楽を形づくっている要素や，その関わり合い方を，自分の思いや意図をもって創意工夫する力

音楽科において，表現および鑑賞の学習において共通に必要となる資質・能力として〔共通事項〕が示されている。そこでは，音楽のよさやおもしろさ，美しさを感じ取る際に聴き取るべき音楽の要素が明確に示されている。

本校音楽科では，その〔共通事項〕に示された音楽の要素を基に知覚・感受したり，表現を工夫したりすることを重視し，そこで必要とされる力を上記の「思考力」としてまとめた。



a　知覚・感受する力

音楽は，音色やリズム，速度等のさまざまな要素により特徴づけられている。そしてこれらの要素の関わり合い方によって独自の構造をもち，それが楽曲に固有の曲想を生み出す。

これら楽曲の独自性を基に，そこから情景を想像する力が「知覚・感受する力」である。音楽的な刺激を受け取るという受動的な面にとどまらず，その刺激に対して自分の心象を形成するという能動的な面も含めて捉えている。

また，実際の学習においては，「『タッカ』のリズムが弾んでいて，踊っているような曲だ」と音楽を特徴づけている要素から情景を想像することもあれば，逆に「お祭りのような曲だ」と最初に情景が浮かび，続いてその根拠となる要素を聴き取っていくこともある。

知覚・感受する力は，このように音楽の要素と情景の双方を行き来しながら高められていくのである。以下に「知覚・感受する力」の実践例を紹介する。

第４学年「拍子の違いを感じ取ろう
－『エーデルワイス』『トルコ行進曲』『ラバースコンチェルト』『メヌエット』－」

【本題材で育成したい「思考力」】

拍子と音楽を形づくっているその他の要素との関わり合いから生まれる曲想を基に，音楽の表す情景を豊かに想像する力

音楽鑑賞をする際には，強弱，速度，音色，高さ等，音楽を特徴づけている要素に着目して旋律の違いを聴き分けることが重要である。本実践では，拍子による感じの違いを捉えた後，『メヌエット』の鑑賞において，長調と短調の２つの雰囲気の違う『メヌエット』を聴き比べた。そうすることで，演奏している楽器の音色や曲の速度，明るい・暗いといった調による感じの違い等，拍子以外の要素に気付いていった。そして，拍子と気付いた要素を基に，再度曲をじっくりと聴き味わうことで思い浮かぶ情景を膨らませ，「１曲目はうきうきした様子で軽くステップを踏みながらターンして，にこにこと笑顔で踊っているみたいだよ」や「２曲目はちょっと薄暗いところで，悲しそうな表情の人がゆっくり歩くように踊っている感じがするな」というように情景をより豊かに思い浮かべていった。

このように，音楽を特徴づけている拍子と，音色，速度，調といったその他の要素とを結び付けて情景を豊かに想像する力が「知覚・感受する力」である。

【要素を基に情景を想像する】

b　表現を工夫する力

既存の楽曲の演奏を工夫する際には，自分の思いや意図を明確にもつことが求められている。そして，その思いや意図に合った表現をするために，音楽を形づくっている要素や，その関わり合い方を創意工夫するのである。

具体的には，例えば「速度の変化」のように要素自体を工夫することもあれば，「旋律の呼応」のように単一要素の関わり合い方の工夫，さらには，「旋律とそれを演奏する楽器」のように別の要素の関わり合い方の工夫もある。

なお，この「表現を工夫する力」は，先に述べた「知覚・感受する力」に支えられていることは言うまでもない。情景を想像することで，「このような音楽にしたい」という思いが一層強まるからである。また，音楽を形づくっている要素が，楽曲にどのように働きかけるかを感じ，理解していなければ，要素を選んだり組み合わせたりすることもできないからである。

以下に「表現を工夫する力」の実践例を紹介する。

第１学年「音をつないで星空を表そう　－『きらきら星』『夕星のための踊り』－」

【本題材で育成したい「思考力」】

『きらきら星』や『夕星のための踊り』の曲想や歌詞から想像した情景と結び付けながら，音色やリズムを創意工夫する力

本実践では，『きらきら星』や『夕星のための踊り』の曲想や歌詞から夜空に輝いている星空の情景を思い浮かべ，さまざまな音色に短いリズムをつけて，自分の思いに合うように工夫していった。子どもたちは，４つの星（夕方のいちばん星，夜のたくさんの星，真夜中の流れ星，明け方の消えていく星）の中から，自分たちの思い浮かべた星の様子に合う音色とリズムを確かめ合いながら練習し，「星の音をつなげて，星空の音楽をつくろう」という学習課題を設定した。次に，４つの星を順に鳴らして音をつないで演奏した。そして，「友達とうまくつながらないな」と感じた子どもたちに，音色やリズムを工夫してつないでいる子どもの演奏を聴かせた。すると，「いちばん星は鉄琴だ」「次のたくさんの星も同じ鉄琴だ」と，同じ音色でつないだり，「流れ星はタタタタだ」「消えていく星はタン，タン，ターン」とリズムを変化させてつないだりする工夫に気付いた。その後，４つの星の音がつながるように，音色やリズムを工夫する時間を設定した。子どもたちは，いちばん星が光り，だんだん星が増えて流れ星が流れ，だんだん星が消えていく等と，自分たちの思い浮かべた情景に合うように音色やリズムを工夫していった。

このように，音色やリズム等，音楽を形づくっている要素の関わり合い方をさまざまに変えながら，情景にふさわしい表現を創意工夫することが「表現を工夫する力」である。

【音をつないで演奏する】

音楽科